

平成 26 年度政務活動報告

桑名龍吾

平成 26 年度の政務活動に関する主な事項を報告致します。

平成 26 年度は、国の経済対策や県が推し進める産業振興計画の成果も出始め、本県においても、有効求人倍率や法人 2 税など県税も大幅増と成り経済指標から見れば景気回復の兆しが見え始めてきたと判断できます。しかし、その実感は、まだ無いという厳しい声も聞こえています。産業の定着、商品の販路拡大、観光客の誘致など更なる成功例を積み上げ、それぞれの地域・職種においても実感を得られるものにしていかなければなりません。また、国の基本政策となった地方創生や国土強靱化は、本県が先行実行している政策が多く盛り込まれており、これまで取り組んできた事の方角性は間違っていなかったと理解をしています。そういった事を勘案し政務活動を行ってきました。以下、県外視察の主な事項を報告します。

地産外商について

高知の産品を、広い経済圏で売り出す地産外商政策の状況について調査を行いました。地産外商公社では、首都圏における高知の売り出し方、マスコミ対応などについての意見聴取を行いました。また、築地にオープンした築地につぼん漁港市場では、県内出店業者と意見交換をしました。観光客が溢れかえる築地で鮮魚がはたして売れるのか疑問を感じたところですが基本方針は、業務用を売り出す店舗であり、今後販路開拓に努めるとのこと。東京事務所、水産振興部、地産外商公社の連携で販路拡大を図っていかなければなりません。農産物においては、大阪中央市場において園芸連、各卸会社と高知産品の評価、今後の見通しなど意見交換を行いました。今後は、コンビニ仕様の形態が主流になるだろう。また、食生活の多様化に応じた産地づくりも必要になってくるとの見解をいただきました。今、県が行っている有望品目の開発は急がれるところであります。

スポーツツーリズムの振興

交流人口の増加が期待できるスポーツツーリズムの振興を図るため高知にキャンプに来ているオリックスバファローズ、アルビレックス新潟の球団を訪問しました。両球団ともキャンプ地としての高知県の評価は高く、今後も利用していく感触を得ました。しかし、練習試合の相手が少ないなどの問題もあります。また施設面では、オリックスバファローズの使用する東部球場の室内練習場の設置は急がなければなりません。アルビレックス新潟は、地元サッカーチームのサッカー教室など地域貢献もしたい意向もあります。それに高知側もお返しをしなければなりません。今後はもっと練習見学を増やすとともにチームのファンを増やすこともキャンプ地として高知を選定してくれるひとつの要因になるものと思います。

また、新潟県魚沼市で行われた、東京六大学野球オールスター戦の誘致に向けた視察を行いました。規模、応援団の様子、地域との連携など視察を行いました。視察後、27年度夏に高知県で開催が計画されました。地域の学校、大学のOB会との連携をはかり成功に向けた動きをしていきます。

医師確保について

本県における医師不足、地域の偏在、科目の偏在を解消するために地域医療再生セミナーに参加しました。なぜ、医師不足がおこるか。これから地域医療で起こりうることは。自治体病院と地域医療などが研修項目でした。議会が自治体病院を追い込んだ例、住民が自治体病院を救った例などを学びましたが、要は、医療現場を如何に知るか。医師の思いがどこにあるのかを知らなければこれらの問題の解決にはなりません。今後は、現場に足を運び実態を認識して参ります。

調査研究活動実績

- 1・産業振興計画推進のための調査研究
- 2・観光振興についての調査研究
- 3・南海地震対策についての調査研究
- 4・財政問題についての調査研究
- 5・移住対策についての調査研究
- 6・農林水産業振興についての調査研究
- 7・行財政改革についての調査研究
- 8・新エネルギー対策について調査研究
- 9・教育行政についての調査研究
- 10・公共事業についての調査研究
- 11・中山間地域対策についての調査研究
- 12・医療、福祉についての調査研究
- 13・雇用問題についての調査研究
- 14・安全な町づくりについての調査研究
- 15・高知競馬に関する調査研究
- 16・その他県政全般の課題に関する調査研究